

分苑たより

なごみ

大本
名古屋分苑

分苑長

霜月 月次祭挨拶

サルートン 皆様こんにちは、霜月の月次祭にご参拝頂きありがとうございます。

本日私は亀岡で全国会長・人類愛善会協議会会議に参加しており皆様方に直接挨拶が出来ず申し訳ありません。

開教百三十年の開祖大祭で再び本宮山に参拝が許され当日の朝には長生殿の正面には、四代教主様、ご染筆の長生殿の立派な扁額（へんがく）が掲げられました。

教主様のご挨拶を紹介させていただきます。

長生殿完成三十年を迎えて、さまざまな試練を受けながらも三代教主様のお示しの通り、私達人類は今、みろくの世の住人としてふさわしい誠の人となるための架け橋を渡らせていただいているのだと思います。

ます。

とりわけ、ご神諭に何度も繰り返されているように、世界のことが写るといわれる大本の中で、私達信徒は行状（おこない）を善くして、それぞれが、悪い型は良い型にねじ直し、良い型はどんどん出させていたただくことがとても大事なことに感じています。

皆様も、九九・九パーセント悪いことが続くように思っている、祈りつつ、粘り強く、諦めないで努力していると、何かを機にある時一瞬で手のひらをかえたように状況が好転するという経験をお持ちではないでしょうか。お互いの立場を思いやって、助け合って、だれ一人もれ落ちることがないように、皆様と共にこの橋を渡らせていただきたいと心より願っております。

あと一月余りで令和四年の

年が終わり、明年からは、激動の五六七の三年間の初年度、令和五年の年を迎えます。

このようなときこそ私たちはなお一層気を引き締めて、聖師様の唱えられた万教同根、人群万類愛善という共通の理念のもと、いろいろな活動を通じてご縁を大切に、さらに絆を深めてまいりたく存じます。

そして、未来に向かって、だれかがやってくれるだろうというような依頼心はもたず、自分自身でよく学習し、よく考え、自立して行動し、今自分ができることに力いっぱい努めてさせて頂きました。お言葉をいただきました。

十一月十三日松香分苑の月次祭終了後、隣にある、桜ヶ丘中学校・高等学校でロサンゼルスオリンピック体操競技金メダリスト・前日本体育大学学長の具志堅 幸司様の講演の中で自分がたてた目標に向かって本気で真剣に行う事とおっしゃってられました。今年も、残すところ四十日

足らずです、令和五年度の行事予定表も各東海教区の方々にその地区の活動を合わせてもらうように回覧しています。

本部の行事も今回の主会長会議で決まりますので皆様へは十二月月始祭には配布させていただきます。

この日は令和四年度の暫定と令和五年度の予算審査を総代の方々に審査していただきます。

新型コロナウイルス感染者も増えつつあります、インフルエンザの流行も懸念されます、どうか健康に気を付けて下さい。

本日の参拝ありがとうございます。コーランダンコン

行事報告

●誠心会活動報告

名古屋分苑誠心会では十月二十九・三十日（土・日）に晴天の秋空の下、聖地綾部に於いて献勞奉仕を行いました。初日は長生殿からみろく殿前、松香館前までの剪定した檜垣や落ち葉の片付けでブロー、

竹ぼうきで集め、石ころが入らないように注意してかごに入れる作業を行い、忙しい中休憩をはさみ何とか時間までに終える事が出来ました。二日目は白衣に着替え、金竜海周辺の清掃、大八洲神社、杵島神社、冠島神社等のお宮の清掃をさせて頂き清々しく無事作業を終えました。今回は石原特任の提案でみろく殿の午後一時からの慰靈祭にみんなで参拝してから帰ることにしたので重ねておかげを頂いた献勞奉仕でした。

参加者7名 高嶋分苑長、石原松生、妹尾正治、小鹿正光、小林清人、鈴木克彦、畠山茂 報告



●月始祭

十一月五日(土)

参拝者 七名

斎主 天野 芳幸

祭員 畠山 茂

進行 青山 将士



●月次祭

十一月二十日(日)

参拝者 二十八名



斎主 近藤 哲史

祭員 畠山 茂

祭員 小林 清人

祭員 日比 達朗

進行 青山 将士

裏方 伊藤 久仁男

●全国誠心会会長会議・研修会

(十一月二十六・二十七日)

高嶋善雄 報告

二十六日(土)は午後一時

半より誠心会と青年部と合同で教主様のご面会を賜り、その後、教主様を囲んで記念撮影を行いました。

引き続き教団方針説明・エスペラント創立百周年についての講話・エスペラントによる黄金の愛善歌の歌唱練習・夕拝夕食後、各機関の活動報告を終えてから今回久しぶりの懇親会がありました。

懇親会には、教主様よりご命名の大和合 紅と書かれた桐箱入りの純米大吟醸を頂き楽しくひと時を過ごせました。翌二十七日(日)は、朝八時よりマイクロバスで瑞泉苑に移動して久兵衛池の泥上と瑞泉苑の枯葉掃除に別れて作

業を行いました。

池には体長八十センチもある鯉がおり泥上げ中に作業者が邪魔にならない場所に放つたおとなしくしていました。

泥上げも順調に進み最後には、瑞泉苑の雑草取り迄行う事が出来ました。

午後二時過ぎに戻り、お風呂に入りゆつくりと帰途に就きました。



行事予定

十二月十八日(日)

月次祭 午前十時半より

後期機関長会議

十二月二十五日(日)

年末大掃除 午前十時より

十二月三十一日(土)

大祓祭 午後一時半より

一月一日(日)

新年祭 午前十一時より

一月七日(土)

入学祈願 午後一時より

言葉の力 その⑧

特任宣伝使 妹尾正治

「わかつちやいるけどやめられない」植木等さんの『スーダラ節』の歌詞の一節です。

♪チョイト一杯のつもりで飲んでいつのまにやはらしご酒 気が付きゃホームのベンチでゴロ寝 これじゃ体にいいことないよ わかつちやいるけどやめられない ソレスイスイスーダララッタ・♪ 植木さんは初めてこの楽譜を手にしたとき「この曲を歌うと自分の人生が変わってしまうのでは」と真剣に悩んだそうです。彼はお寺の次男坊で、少年時代の

植木等は、投獄された父に代わって僧衣を纏い檀家をまわる生活を送っています。

治安維持法違反で何度も投獄された、ちよつと放蕩児のお父さんは、社会的正義感の持ち主で真宗大谷派常念寺の住職でした。

そんな父親に相談すると「どんな歌なんだ？」というので歌ってみました、あまりにもぶざけた歌詞に激怒されると思いきや、父親は「素晴らしい」と涙を流さんばかりに感動したそうです。

理由を尋ねると『この歌詞は我が浄土真宗の宗祖、親鸞聖人の教えそのものだ、親鸞さまは九十歳まで生きられて、あれをやっちゃいけない、これをやっちゃいけない、そういうことを最後までみんなやつちやった。人類が生きている限り、このわかつちやいるけどやめられないという生活はなくならない、これが人類の真理だ、上出来だ、頑張つてこい!』と諭され歌うことにした。皆さんも、わかつちやいるけどやめられない経験ありますよね、でも全部やつちやった親鸞さん・ダメダメ